

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300076
法人名	有限会社メディカルウイル
事業所名	グループホーム輝望の家
所在地	鹿屋市輝北町上百引1919-1 (電話) 099-471-3456
自己評価作成日	H30年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	H30年11月30日(金)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな緑に囲まれた当施設は、付近に東屋が設置されており、天気の良い日は散歩後の休憩場所としても利用し、外の空気に触れながらティータイムを満喫しています。また、当施設のリビングは74.16㎡と広く、天井は吹きぬけで、開放感のあるリビングとなっております。対面キッチンなので、食事作りの音や匂いを感じることができて、食堂とはまた別に、リビングフロアもあり、ソファで利用者様がくつろげる空間も確保しております。最近は毎月1回「手作りおやつ」として御利用者様と職員が一緒にお菓子作りに取り組んでおり、とても生き生きと参加されて楽しい一時を過ごしています。身体機能の維持・向上に関しては、個々に応じた下肢筋力運動(立位訓練)や、生活リハビリとして、洗濯物を干したり・たたんだり、毎日ラジオ体操やレクレーションを行い、利用者様が楽しく、役割を持ちながら安全・安楽に過ごせるよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、利用者との過ごし方や職員の働き方について意見や要望を聞き取り、日々の業務や運営に反映させている。また、管理者からは、わからないことは何でも尋ねてほしいことや、思いを伝えることが難しい利用者の気持ちを大切にしよう教えられており、職員は個々の利用者の個性を見極めた支援に気を配りながら、日々の生活支援につなげている。

○食事が楽しみになるよう、調理の下ごしらえや味付け、炊飯など、利用者や職員と一緒にいき、同じメニューを会話をしながら食べている。また、ブレンダーでレタスやネギ、大根など季節の野菜を作り、収穫した野菜を調理に利用することで、食事中の会話促進にも一役買っている。見た目も大切と考え、使用する食器や、おかずの盛り付けにも気を配っている。最近は、月に一度、利用者や職員と一緒におやつ作りに取り組んでおり、利用者は思い思いのエプロンを身につけ、パフェ作りやたこ焼き作りを楽しんでいる。

○本人や家族の意向を基に、毎月のケア会議や定期モニタリングに加え、受診時に把握した主治医の意見も参考にしながら、具体的でわかりやすい介護計画を立てている。また、利用者の身体状況や家族の思いの変化を把握した場合等にも、介護計画を見直すなど、常に現状に即した介護計画になるよう努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念をみんなで唱和し、実践に繋がられるようにしています。	本人本位や尊重、思いやりをもって接することができるよう、毎月のセンター会議やミーティング時に確認している。日常的に言葉遣いや態度など、職員間で確認し合うとともに、日勤者と夜勤者がしっかり引き継ぎを行うことが理念の実践に欠かせないと考え日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が作った野菜を購入し地域の方が事業所によく行き来されています。また、近医のクリニックを受診した際に、地域の方と交流できる機会にもなっています。	近所の農家から米や野菜を購入することで事業所の取り組みを伝えることができ、地域のことを知る機会にもなっている。また、近くのクリニックを受診する際に地域の方と挨拶を交わしたり、敬老会等の行事に慰問のボランティアと会話を楽しむなど交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	市の主催した研修を終了し、「オレンジの窓」の看板を設置し、いつでも気軽に立ち寄り相談できるよう窓口を設置しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の状況報告や作成した新聞を活用しての行事内容説明、今後の行事予定等を報告し、参加者様の意見や評価を頂いている。又、地域における状況も伺って意見交換を行い情報の共有と連携を図っている。	会議には家族や地域住民、民生委員や行政職員、高齢者クラブ会長の参加が得られ、ボランティアの受け入れ登録の提案やヒヤリハットについて意見をもらうなど活発に話し合われ、工夫や改善につなげることができた。また、認知症や感染症対策について学ぶ時間を設けるなど有意義な会議となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	1回/2ヶ月の運営推進会議に参加していただき、実情報告やサービスの取り組みなどの報告・意見交換の中で協力関係を築いています。また、市が主催する集団指導に参加したり、不明なことなど電話相談でもいつでも対応して下さっています。	運営推進会議や介護認定更新手続き、集団指導や実地指導のほか、地域密着型事業所合同研修会への参加など、行政職員と顔を合わせる機会は多く、事業所の実情の理解につなげることができている。また、運営する上で不明な点があれば、こまめに相談に出向いたり電話で意見を頂くようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置して、廃止に向けた会議や取り組みについて、また身体拘束に関する勉強会も毎月実施して、日々のケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止に関する研修会を毎月のセンター会議で実施しており、言葉による拘束や行動制限のない自由な暮らしの支援につなげている。言葉による拘束については、利用者が不安にならないよう適切な言葉を選んだり、外出しそうな素振りを察知した場合は、職員間の見守りを徹底させるなど、行動を制限しないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加したり、研修資料を参考にして毎月勉強会を行い、職員全員が学ぶ機会を設けている。勉強会で事例を確認し虐待の見逃しがないように日頃より言葉遣いや対応などに注意を払い防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成し、事務所に置きいつでも目を通せるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修会への参加の機会や勉強会を実施し、全職員で理解を深め、社会福祉協議会の方とも交流する機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時や解約時は、ご家族やご本人様に十分な説明を行い、又、利用者様や家族等の不安や疑問点について伺い、親身な対応を心がけています。また、契約後も不明な点はいつでも相談できるよう努めています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約時に苦情・相談・意見等は気軽に相談くださるようにお伝えし、また外部の相談窓口を重要事項説明書記載し紹介しています。苦情相談があった際には、ミーティングや職員会議等で全職員に周知し運営に反映させています。</p>	<p>利用者からは日常会話の中から意見を求め、家族からは来所時や家族宅に請求書を持参した際に意見を伺うようにしている。また、県外の家族には、請求書と一緒に毎月のお便りである「輝望の家新聞」を添えることで、意見や新聞の感想など、思いを伺う機会としている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者は勤務表を把握し、人事考課を通じて面談を実施し、昇給や賞与など査定し、やりがいを持って働けるよう職場環境や労働条件などの整備に努めています。</p>	<p>利用者との関わり方や業務改善について、また、休日の希望等、職員は随時管理者に相談し意見を求めている。管理者は、職員のモチベーションを高めるために、良いところや正しいところを率直に伝えることで意見を引き出し、汲み取るよう努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課を通じて一人ひとりの実際と力量を把握し、研修会や勉強会へも積極的に参加するよう呼びかけ、資料などの配布も行っている。スキルアップを目標に資格取得できる研修の案内や、受講できる勤務形態を配慮しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課を通じて一人ひとりの実際と力量を把握し、研修会や勉強会へも積極的に参加するよう呼びかけ、資料などの配布も行っている。スキルアップを目標に資格取得できる研修の案内や、受講できる勤務形態を配慮しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の同業者と意見交換や訪問できる機会を設け、サービスの質の向上に向けて取り組んでいます。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを導入する段階で、本人様の話を傾聴し本人が困っていること、不安なこと、要望に対してのサービス内容を一緒に考えたり、提案したりして納得して頂き、安心して生活が送れるように努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを導入する段階でご家族の困り事や不安なこと、要望を傾聴し、それに対応するサービス内容を一緒に考えたり、提案したりして納得されたり、体験をしていただいたり、現場をみていただき安心していただけるように努めている。いつでも相談できる雰囲気づくりにも努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、入所時のアセスメントやサマリー等で本人の状態把握を行い、本人と家族の意向を傾聴し、又、言動をよく観察し、ニーズを把握した上で支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員と一緒に食事をしたり、炊事・洗濯などの協働作業を一緒に行うことで家庭的な雰囲気の中で、生活できるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行の事業所新聞を通じて、利用者様の状況報告を行ったり、担当者会議や面会時・電話などを通じて語らせる環境を作り本人と家族の絆を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪や病院など今まで通っていた馴染みの場所へ行ける支援や、友人などの訪問の際にはゆっくり語らせるようお部屋の環境作りに努めています。	これまでの人間関係や馴染みの場所をアセスメントシートに記録し、入居後も関係が途切れないよう電話や手紙、訪問等により支援している。家族や知人が来所された際は、ゆっくりくつろげるよう椅子やテーブル、お茶を用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や、性格等を踏まえて配置などを工夫し、孤立せずに、共に支えあえるような環境づくりに取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院でサービス利用が終了しても、定期的に面会に行ったり、ご家族様とも連絡を取り、経過フォローや相談・支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、本人の意向を聞いて尊重し、生活援助・支援に努めています。	日常会話や日々の様子から思いを汲み取り、アセスメントツールである「ひもときシート」を活用して、個々の思いを掘り下げ理解につなげている。把握した内容は、申し送りシートに記録することで職員が目を通し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族、知人等から話を聞いたり、今まで利用されていたサービス事業所からの情報提供等頂き把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の言動や過ごし方、心身の状況等観察を行い、気づきがあれば、記録に残すようにし、現状把握・共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングや日々の状況変化が見られた時、本人、家族、職員等で即座に小会議を開き、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	本人・家族の思いや意向を基に、モニタリングや毎月のケア会議、主治医の意見も参考にしながら介護計画を立てている。実地指導による助言を受け、詳細な介護計画を、わかりやすい言葉を用いて作成するよう努めている。また、意向や状況の変化に応じ、随時計画を修正し、担当者会議を経て交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づき等を個別記録に記入し、朝礼や職員会等で意見を出し合い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況、その時々生まれる様々なニーズに対応できる柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会を通して、駐在所、民生委員、地域の方々と意見交換を行いサービスの向上に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もかかりつけ医の受診の支援を行い、診察時など状況報告を行い、適切な医療が受けられるように支援を行っています。	入居前の医療機関を把握し、入居後も本人・家族の希望する医療機関を受診できるよう家族と職員が協力し支援している。家族が受診に同行する場合は、日頃の様子や状態が医師に伝わるよう、メモを準備し家族に渡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常生活の中で表情・身体において気付いた変化を看護職員への報告を行い早期発見、早期受診できるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際に生活サマリーを作成し病院側への情報提供を行っています。入院中担当医師・担当看護師・理学療法士・ソーシャルワーカーより病状、身体状況の説明を受け退院時御利用者様が安心して生活出来るよう受け入れ準備、フォローを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は入所時に本人様やご家族への説明を行っています。終末期になった場合は再度ご家族、主治医と話し合い、方針を確認し情報を共有して支援を行っています。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、入居後も本人・家族の変化する思いや意向を繰り返し尋ね支援につなげている。医療機関との連携が難しいことから、これまでに看取りを行った事例はないが、重度化しても可能な限り事業所で支援していきたいと考え、関係者間で協議を行い対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回普通救命講習を受け対応を学んでいます。又、講習や勉強会を実施し急変や事故発生時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練は夜間、日中を想定し実施し、1回は消防の方にも参加していただき、指導・助言をいただいています。また、地域住民の方々も参加して頂き実施しています。	消防署立ち会いの下による災害訓練と事業所独自の自主訓練を夜間想定を含め実施している。各居室は掃き出し窓のため避難し易い構造であり、スプリンクラーやパッケージ型消火設備も備え安心につながっている。備蓄は約3日分の飲料水と食料が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳・尊重をモットーに、声のかけ方に気を配り又、援助の際にはこれから行動することの説明と同意を得て対応しています。	プライバシーに関する研修会を実施し、トイレ誘導時の声のかけ方や誘導の仕方等、尊厳を損ねない対応についてを話し合い支援につなげている。また、カルテの管理や個人情報に関する同意書を取り交わすなど個人情報の取り扱いに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がいつでも自分の思いや希望が表せるような雰囲気作りを心がけ、又、入浴時や外出時、本人の着たい服や使いたい物等自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の思いや一人ひとりのペースを大切に、その人らしく、元気に笑顔で暮せるように、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日着る服の希望を聞いて、選択できるような支援を行っています。また、散髪なども希望に応じて対応しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	随時嗜好や希望を聞いて、食事メニューに取り入れたり、野菜の皮むきや、味付け、食事の盛り付けなども助言頂いたりしながら一緒に行っています。	野菜の皮むきや味付けなど、利用者職員と一緒に調理をし、同じメニューを会話を楽しみながら食べている。また、季節に合わせた行事食の提供や毎月実施している「おやつ作り」では、利用者もエプロンをかけ、ホットプレートを使ったおやつやパフェ作り等を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェックを行い、1日を通じて必要な栄養と水分の確保ができるよう支援をしている。食欲が無い時には嗜好を聞いてその時召し上がることできそうな代替食の提供を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを必ず行い、必要に応じて入れ歯専用剤につけて、清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄出来るように、おむつの選択（夜は紙おむつ使用だが、昼間はリハビリパンツ使用等）を利用者様の状態に応じて検討し、トイレで排泄できるよう支援しています。排泄パターンも把握し、随時声かけや誘導を促しています。	排泄や食事、バイタル等を「健康管理表」に記録し、可能な限りトイレでの排泄とすることで、おむつに頼らない支援につなげている。また、個々の排泄パターンの把握や介助の仕方についてを丁寧に介護計画に記載することで、職員全員が統一した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつで乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れたり、水分補給も小まめにとっていただけるよう工夫しています。また、毎日体操や散歩も取り入れ便秘予防にも努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週6日、入浴の支援を行っているが、利用者様に声をかけて、希望を伺い入るタイミングを計っています。また、リラックスして気持ちよく入浴をして頂けるように音楽をかけたり、入浴剤を用いて支援しています。	日曜日以外は毎日入浴できる環境を整えており、ゆず湯や入浴剤等を使用し楽しく入浴している。入浴後は、皮膚状態に応じて保湿クリームを塗布したり、頭髪を十分に乾かすなど気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣や自分のペースで休憩したり、安心して気持ちよく眠れるように、声かけや支援を行い、室温・温度・採光、寝具調整を適宜行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職を中心に、一人ひとりの疾患や、薬局やクリニックから書面としていただいている薬の作用、副作用について把握し、名前、日付け、曜日を読み上げ、服薬の支援を行っている。体調の変化が見られた際には看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や楽しみごと等話を伺い、その人の持っている力を生かした役割（野菜の皮むき、洗濯物干し・たたみ）塗り絵や折り紙での作品作り等、生きがい作りの支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望を聞いて買い物をしたり、墓参りに行ったり、散歩などできるよう支援しています。野外活動ではご家族とも協働して外出しています。	桜や紫陽花等、季節の花見に出かけたり、初詣や小学校の運動会への参加等、年間行事計画を立て外出している。また、買い物やお墓参り等、個別に希望する外出先にも家族と職員が協力し合い出かけるほか、日常的に敷地内を散歩したり、東屋でお茶を楽しむなど外気浴も行う等、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるように外出や買い物等は職員が立会い、見守りや声かけ等支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて連絡をとりたい方とやりとりができるよう電話援助など支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、常に清潔にし、快適な環境を保つように空調の調節も行っています。また、玄関やフロアには、季節の花を飾ったり、利用者様と作ったその時期の壁面飾りなど飾って季節間を感じてもらっています。	フロアの天井は高く、シーリングファンと天窓を備え、明るく開放的であるとともに、湿度や温度等空調にも配慮している。キッチン是对面式になっており、利用者も自由に出入りができ、一緒に調理に取り組むなど楽しく過ごしている。中庭のウッドデッキや併設の東屋でお茶を飲むなど、くつろげるスペースも確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のフロアにテーブルとソファや椅子を配置し、好きな時間にのんびり・ゆったり過ごせるように工夫しています。また、気の合った利用者同士で楽しく過ごせるようにソファの位置も自由に移動出来るように支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人様、ご家族と相談して、利用者様が今まで使っていた家具や好みの物を置き、配置も、利用者様が使いやすいようにし居心地良く過ごせるようにしています。	エアコンや電動ベッド、ハンガーラックが備え付けられており、温湿度計の設置や、冬は加湿器を用意するなど、感染症対策にも配慮している。また、居室担当を決め、衛生面等環境の整備や居心地の良い空間作りにも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりが安全かつ自立した生活が送れるように、施設内はすべてバリアフリーであり、自立した生活が送れるように物の配置等工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない